

ああ、結婚！

—婚活日記—

第13回

黒田長宏

<2019年12月6日>

日常的な変化と言っているのか、なぜかフェイスブックでフィリピンの女性がほとんどの集中リクエストがきて、ほとんど承諾していったら、4000人を超えてしまっていて、5000人の締め切りまであと少しとなってしまった。日本人は以前からの200人くらいだと思う。不思議だが、そうなっているのだからその通りにやっている。

婚難救助隊サイトの広告募集の箇所を削り、ユーチューブを上にもってきた。広告より、ユーチューバーとして認知してもらおうという策にしてみよう。

<1月21日>

おおざっぱではあるが、本日、婚難救助隊サイトの閲覧者が4000人を突破したので、登録者にメルマガを送った

(出来たような気がするが)。明後日でサイト開設1年となる。結婚したい人は結婚できる社会実現のために、継続する。私自身は勤務先でも告白ができず、マッチングサイトを頑張っているが、誰もマッチしてくれない。

<1月27日>

思えば、一つだけ残っていたマッチング・サイトをさぼっていた感もあり、再び意識してきたが、どれだけいいね！しても反応がない中で、本当に久しぶりに、しかも婚難救助隊サイト開設1周年ちょうどに、一人返信がきて、期待したが、結局最後は、希望年齢より離れているのでごめんなさいと書かれ終えた。4、5日ほどのささやかなご縁だった。しかしくじけず、新たに今日も何人も応募した。午前中ほとんどはそれで終えてしまったくらいだった。

SNSのほうは、フィリピン女性がほとんどという、なにかSNS側でコントロールされているのかわからないが、ほとんど5000人に近づいてしまい、火山が噴火したニュースが少しあって大変だと思う。以前は関心がなかったのに、意外なことである。しかし日本でも新型コロナウイルスの影響が出てきて、他人事ではない。今年はなんとしても再婚と、婚難救助隊を動きにしたいものだ。朝ドラにも出た有名俳優と、某プロモを観ている期待していた新進女優の不倫騒動には、結婚したくてもできない人もいるのにとがっかりしている。

<2月10日>

今回は提出までもっと粘ろうかと思ったが粘れなかった。次は私と同世代の女優の不倫騒動である。有名人でこうなのだから一般人ではかなり不倫があるのだと思う。結婚したくてもできない人もいるというのに大変憂うるとともに、某週刊誌は某アーティストの時はなぜか叩かれたが、また不倫という破壊行為を知らせてくれている。私はその週刊誌を応援して毎週買っている。読むのはさぼっている。新型コロナウイルスは東京オリンピックができるのだろうかと思うくらいになっているような気がするが、私はテレビで観るだけである。昨日は部落の役員決めの集会があり、10年以上か、母親に出てもらっていたが、久しぶりの持ち回りのトップになったのを機に、一昨年から集会に復帰したが、思うところもあった。勤務先の新年会は欠席させていただいた。このように私は少年のころから集会というのが苦手である。ある陶芸家などはほとんど交際は奥さんに任せて一生を終えられたという。なんと幸福だったことだろう。そういう助けくれる人が1人いれば十分に幸福なはずなのだ。だから私は不倫は批判しなければならない立場をとる。某マッチングアプリは月に2人反応だけきたが、年齢差などで断りがあり、通り過ぎていった。まったく反応がない人と、交際しないのに反応はいちおうくれる人とどちらが良心的なのかなと思う。職場で声をかける気力は相変わらずでない。間接的にもなかなか人が協力してくれるのは難しい。

婚難救助隊のサイトはユーチューバーとしてのパフォーマンスを主にしているだけだが、今みると4265カウントになっている。次回こそは、何か楽しい動きが報告できれば良いのだが。